



福+（ふくたす）プロジェクト ～秋田に「福の輪」を～

当クラブは世界で最も高齢化率の高い秋田だからこそ、世界に先駆けて社会課題解決に取り組んでいます。中でも中央大学FLP小林ゼミと協働し、以下2つの社会課題解決に向け2014年より活動を行っています。①地域コミュニティの機能が減退→交流機会の創出による繋がり構築②高齢化による社会保障費増大→運動・試合観戦機会の創出による健康寿命延伸 具体的には東京の学生が主体となり、高齢者を対象にしたスポーツイベントを開催し、運動機会・多世代交流の機会を創出しました。また運動することが困難な高齢者に対しても、eスポーツや試合観戦が健康・生きがいになるということを中心に拍数の変化や心理状態の変化から実証しました。

- 活動場所** : ソユースタジアム、秋田市茨島体育館、秋田市スポーツ科学センター、秋田市役所センター
- 取組テーマ** : 持続可能な地域づくり／健康/SIB／地域のコミュニティ／交流人口・関係人口の増加／スポーツ観戦を生きるチカラ
- 協働者** : 企業／学校／各種地域スポーツ協会
- 協働者名** : 中央大学FLP小林勉ゼミナール、秋田市グラウンドゴルフ協会、秋田県8人制バレーボール連盟、常葉大学准教授今村貴幸教授、秋田大学、ワタナベ整骨院院長渡部真吉先生、中央大学学生会秋田県支部・朝日綜合株式会社

活動で工夫した点

運動することが困難な高齢者に対してeスポーツ・試合観戦の機会を提供したことです。eスポーツを誰でもできるバリアフリーなスポーツとして、eスポーツ講演会を開催しました。体験前後の心拍数の変化からeスポーツに軽強度の運動効果があることが判明し、健康促進ツールとしての可能性を見出しました。また試合観戦においてもTDMS-ST調査より、観戦前後の心理状態の変化からフレイル予防につながる事が判明しました。

活動で大変だった（苦労した）ポイント

活動を進めていく中での各関係者との利害関係の調整です。一例として、イベントの運営面でご支援いただく方と広告・景品協賛のスポンサー企業との間で参加者募集対象の相違です。特に、参加者に求める競技志向やエンジョイ志向、年齢層など、各関係者の想いや狙いがあったからこそ衝突でした。そこでクラブ・学生が仲介役として話し合いの場を多く作り関係者・参加者にとってHappyとなる施策を打つことができました。

クラブや地域の活動後の変化

学生：活動の中で困難な壁にぶつかり・乗り越えていくことで、苦しさや嬉しさ、達成感を感じ、大きな成長を実感 イベント関係者：メディアに取り上げられ認知度も年々拡大しているため、共感性が増大し助言も熱を帯びる 参加者：6年の蓄積で普段からスタジアムに足を運び試合観戦をする方が増加 地域の雰囲気：毎年参加してくださる方も多くおり、プロジェクトを通して「福の輪」が広がり地域に根付いた活動になっていることを実感。



協働者の声

中央大学FLP小林勉ゼミ プロジェクトリーダー野澤さんの声：
毎年主体となる学生が変わる中で、6年目のメンバーとして参画させていただきました。参加してもらうからには必ず笑顔で帰っていただきたい、という想いのもと半年間にわたり入念に準備を重ねました。準備を進める段階で気付いたことは、毎年このプロジェクトを楽しみにして下さっている方々がいらっしゃるということです。サッカー観戦とはほど遠い対象であった高齢者の方々とスタジアムを結ぶこのプロジェクト。当日はあいにくの荒天でしたが、別の形でイベントを楽しみ、試合観戦を行いました。応援が通じたのか、勝利が決定的時は、参加者の方と手を取り合って喜びました。スタジアムと高齢者、高齢者と高齢者、若者と高齢者、ありとあらゆるものを交流させるこのプロジェクトに携われたことは一生涯の誇りです。

参加者の声

上記「eスポーツ講演会」に参加した方※取り上げていただいたABS秋田放送より抜粋・「孫がやっている『あまりやらないで』と言っていたのが、『あ～いいんだ』って今思いました」
・「笑ってできるスポーツなのですごく楽しんでできると思いました」
その他スポーツイベント参加者の声：「来年も必ず参加します」・「東京の学生が秋田で活動してくれて本当に嬉しい」

活動の「ここぞ！」というPRポイント

クラブのリソースを活かし東京の学生が主体で活動しており、年々関係人口の濃度が濃くなっています。またクラブ中心の「学生・イベント支援者・協賛企業・参加者」など関わる全ての人がHappyになることです。

補足

この活動では、クラブのリソースを学生に有効活用してもらうべく、クラブと学生のマインドセットをする必要がありました。そのため毎年変わる主軸学生の想いに耳を傾け、目指すべき目標や理念の統合に注力しました。またこの活動は、①秋田（住民含め）：社会課題の解決②クラブ：高齢者層のファン獲得や地域に密着したクラブに③学生：社会課題解決に机上ではなく現場で活動できるという三者以上にベネフィットが生まれています。